

「はい、加藤歯科医院です」

「予約をお願いしたいのですが」

「こちらの医院へおいでになるのは初めてですか？」

「いえ、随分前に一度通ったことがあります、本当に暫くぶりです」

「それではお名前をフルネームでお願いします」

「木田隆です」

「申し訳ありません。少し声が遠いのですが、もう一度お名前よろしいですか？」

「木田隆です」

「木田隆さんですね。ご住所もお願いします」

「横浜市都筑区川和町一―十一―八です」

「こちらに通っていたのはいつ頃か覚えていらっしゃいますか？」

「ええと、五年ぐらい前だったと思います」

「わかりました。今カルテの確認をしてみますのでお待ち下さい」

木田は電話口で暫く待たされた。

「お待たせいたしました。木田隆さんのカルテの確認ができました。木田さんの前回の治療は平成十五年の九月で終わっていますね。担当の先生は高田先生でしたので、高田先生の治療で予約の時間をお調べします。今現在痛みが激しくて仕方ないということはありませんか？」

「いえ、大丈夫です」

「それでは、予約はいつがいいでしょうか？」

「一番早く予約がとれるのはいつでしょうか？」

「そうですね。一番早いのが今週の金曜日の一時三十分になります」

「すいません。曜日はいつでも構いませんが、午後ではなくて午前中に、それもできれば朝一番の時間がいいのですが」

「朝一番というとう九時になります。その時間で一番早くとれる日となりますと、来週の火曜日になります」

「はい、その時間で結構です」

「では来週の火曜日の九時に予約を入れておきます。当日は健康保険証をお持ちください」

「わかりました。よろしく願います」

当日、木田は予約時間の十分ほど前に加藤歯科医院に着き、少し緊張しながらドアを開けて中に入った。

「おはようございます。九時に予約をお願いした木田隆ですが・・・」

「木田隆さんですね。おはようございます。今日は健康保険証をお持ちでしょうか？」

「はい、持ってきました」

「ではお預かりします。それから、こちらの用紙に現在の歯の状況について簡単に記入をお願いします。記入が終了しましたら、こちらのソファアにお掛けになってお待ち下さい」

「はい、わかりました」

木田は記入を終えるとソファアに座り、名前が呼ばれるのを静かに待った。